

(対象期間：2020/1/6～2020/1/10)

【株式市場】SENSEX指数の推移  
(2016年1月1日～2020年1月10日)

## 【株式市場】

週初は、米国とイランの緊張が高まって原油価格が上昇したことからインド株式市場は大きく下落しましたが、翌日は反発しました。8日は再び米国とイランの情勢を巡る懸念がくすぶって下落しましたが、下げ幅は小幅にとどまりました。9日はさらなる情勢悪化懸念が後退したことから大きく反発し、翌10日は今後本格化する10-12月期決算発表への期待感などから続伸となり、週間でも上昇となりました。

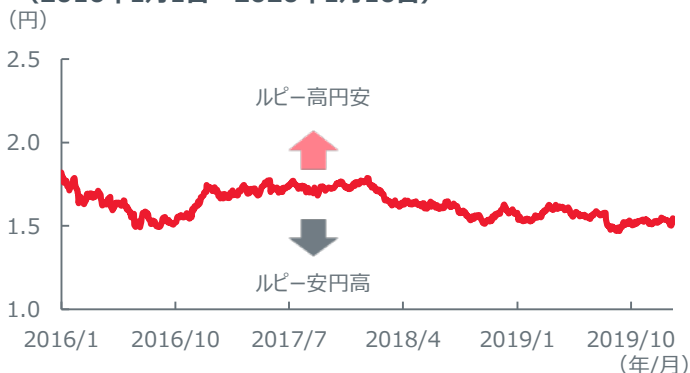
2020/1/3	2020/1/10	変化率
41,464.61	41,599.72	+0.33%

【債券市場】インド自国通貨建て10年国債利回りの推移  
(2016年1月1日～2020年1月10日)

## 【債券市場】

週初は、3回目となるオペレーションツイスト\*が実施されましたが、米国とイランの緊張が高まる中で外国人投資家からの売りが出て、インド10年国債利回りは上昇（価格は下落）しました。7日は原油価格が若干下落したことが好感され、9日にはインド準備銀行（中央銀行、RBI）が財政赤字目標を達成出来ないことを許容するとの観測が報じられ、10年国債利回りは低下しました。10日は期待された追加のオペレーションツイストの発表がなかったことから利回りは上昇し、週間でも利回り上昇となりました。

2020/1/3	2020/1/10	変化幅
6.515	6.588	+0.073

【為替市場】インドルピーの対円レートの推移  
(2016年1月1日～2020年1月10日)

## 【為替市場】

週初は米国とイランの緊張の高まりを背景に原油価格が上昇したことからルピーは対米ドルで下落しましたが、その後原油価格が反落したことからルピーは対米ドルで反発し、週間でも上昇となりました。一方、円が対米ドルで下落したことから、ルピーは対円でも上昇となりました。

2020/1/3	2020/1/10	変化率
1.505	1.545	+2.66%

\*中央銀行が公開市場操作において、長期国債の買い（売り）オペと短期国債の売り（買い）オペを同時に行うことで、市場への資金供給量を一定に保ったまま、長短金利を逆の方向に動かす金融政策の手法の一つ。今回RBIは、長期国債の買いオペと短期国債の売りオペを同時に行った。

出所：グラフおよび表はBloomberg L.P.のデータに基づきイーストスプリング・インベストメンツ作成。

<当資料に関してご留意いただきたい事項> ※当資料は、イーストスプリング・インベストメンツ株式会社が、情報提供を目的として作成した資料であり、金融商品取引法に基づく開示資料ではありません。また、特定の金融商品の勧誘・販売等を目的とした販売用資料ではありません。※当資料は、信頼できると判断された情報等をもとに作成していますが、必ずしもその正確性、完全性を保証するものではありません。※当資料の内容は作成日時点のものであり、当社の見解および予想に基づく将来の見通しが含まれることがありますが、将来予告なく変更されることがあります。また、将来の市場環境の変動等を保証するものではありません。※当資料で使用しているグラフ、パフォーマンス等は参考データをご提供する目的で作成したものです。数値等の内容は過去の実績や将来の予測を示したものであり、将来の運用成果を保証するものではありません。※当資料では、個別企業に言及することがありますが、当該企業の株式について組入の保証や売買の推奨をするものではありません。※当社による事前の書面による同意無く、当資料の全部またはその一部を複製・転用並びに配布することはご遠慮ください。

イーストスプリング・インベストメンツ株式会社

金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第379号／加入協会 一般社団法人投資信託協会、一般社団法人日本投資顧問業協会

英国ブルーデンシャル・グループ

英国ブルーデンシャル社は、イーストスプリング・インベストメンツ株式会社の最終親会社です。最終親会社およびそのグループ会社は主に米国で事業を展開しているブルデンシャル・フィナンシャル社、および英国のM&G社の子会社であるブルーデンシャル・アシユアランス社とは関係がありません。